

Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第116回

公益社団法人
家庭問題情報センター 濱口 俊子

娘の不良行動に悩み、 自分を責め続けたお母さんのケース

相談者は四十代前半の母親。長女A子さん（十七歳）の素行に悩み来室しました。A子さんは中学校卒業後、進学も就職もせず、不良仲間と遊ぶようになりました。最近、女友達が借りているアパートに入り浸っていることが分かり、「力づくでも連れ戻そうとしましたが駄目でした」と、母はせかせかと大声で喋り、なりふり構わない必死の様子が窺われました。

母 友達の親と話し合い、部屋代や生活費は折半することになりました。こんなことを許している友達の親にも腹が立ちましたが、悪いのは娘です。

こんなことをしていたら悪いことをしてしまうに決まっています。

カ（カウンセラー） 心配ですね。これまで補導歴はありますか？

母 ないので。おとなしい子であまり口をきかない、友達もいない子だったのです。

それが、ある友達と気が合ったのか、積極的な彼女に誘われるままに遊ぶようになったのです。遊ぶといっても街

や友達の家等でたむろしているくらいなのですが。

そして私にも反抗するようになってきました。「みんなお母さんが悪い」なんて。

カ お母さんが悪い？

母 そう、私が悪いのです。未婚であの子を産み、父親である男性とは縁が切れたままです。

小学校卒業頃まで、あの子を親戚などに預けたりして私はあまり面倒を見なかったのです。生活のためとはいえひどいことをしたものです。どんなに淋しかったか。あの子を引き取った頃、C男と結婚しB子ができました。

それからはあの子のために精一杯頑張ろうと思ってきました。今も自分のできることは何でもしようと思っているのですが……。

カ お母さんのそういう気持ちを通じるには少し時間がかかるかもしれませんがね。

その間、心配ですからA子さんの部屋に行って何気ない話をして見守ってあげたらどうでしょうか。

お母さんは昼夜働いていますが、仕事の合間をみては相談室を訪れて来るようになりました。

娘が言うことを聞いてくれない憤りと
反面すべては自分（母）が悪いのだから
という両面の思いに悩まされていました。

母 友達は家に戻ってしまいました、
娘はそのままアパートに居残っています。
友達とは縁が切れたのか、ほとん
ど一人でアパートにいます。

私は毎日娘の部屋に行き、お米や野
菜等をたくさん買い込んで食事を作っ
てあげています。

それなのにいつも大喧嘩です。私は
ついつい大声で怒鳴りつけてしまいま
す。娘も負けていません。箒で殴り合っ
たこともあります。

カ A子さんは随分強く自分の気持ち
をぶつけるようになったのですね。

母 娘は私の気持ちが分らないのです。
でも私のせいでこうなったのだから
仕方がないですけど。

カ 分かっているても、あまり世話を焼か
れるとうつとうしいような、反発した
ような気持ちになるのかもしれないせ
んね。

母 そういうこともあるのでしょうか。
お母さんは自分の責任感のために頑

張り過ぎていませんか。少し気を抜い
たほうがA子さんも楽になるのでは。

ただ、A子さんの気持ちを、じっ
と聞いてあげることが大事でしょうね。
母 そんなこと、考えたこともありませ
んでした。

時折になりましたが、その後もお母さ
んの相談室訪問は続きました。

母 喧嘩はやはり続いています、最近、
娘が「ごめんね」と言ったのです。

カ そう、ごめんねと。それは、それは
……。

本音でぶつかり合って、お母さんの
気持ちを受け取れるようになったので
しょうね。

ところで、夫のC男さんはA子さ
んの問題をどう思っているのですか。
夫婦間にすれ違いが生じていませんか。

母 そんなんです。夫は何も言いません。
関心が薄いのです。

娘の問題は私のせいです。私はどん
な犠牲を払ってもと思い、夫より娘を
取ろうと思いました。離婚も考えまし
た。

すると、娘は「B子が私と同じ父
なし子になってしまおう」と離婚に反対
したのです。

私は涙が出ました。娘は継父との生
活にも複雑な思いがあったと思うのに。

カ A子さんの大きな気持ちの成長で
すね。お母さんもよく支えてこられた。
……

その後、お母さんの相談室訪問は途切
れていましたが、ある日、お母さんから
電話がありました。

「A子はいったん家に戻り、住込みの
就職口を見つけました。技術を身につけ
て自立したいと言っています。長続きす
るかどうか、これからがまた大変ですが、
見守って行きます」。とても嬉しそうな
声でした。

最初の相談から半年以上の時間がた
ち、これからもいろいろな出来事に遭遇
するでしょうが、まずは一安心です。

カウンセラーに思
いをぶつけ、自らを
責めながらも遮二無
二に子どもに愛情を
注いだお母さんの姿
が印象的でした。

